

Dell Command | Integration Suite for System Center

バージョン 5.0

ユーザーズガイド

メモ、注意、警告

 **メモ:** 製品を使いやすくするための重要な情報を説明しています。

 **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

 **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

章 1: はじめに	5
新機能.....	5
主な機能と機能性.....	5
サポートされる System Center Configuration Manager のバージョン.....	6
対応オペレーティングシステム.....	6
対応クライアント オペレーティング システム.....	6
AMT で管理されたクライアント システムの対応オペレーティング システム.....	6
対応サーバ オペレーティング システム.....	7
章 2: Dell Command Integration Suite for System Center の使用	8
配布ポイントの管理とアップデート.....	8
Dell WinPE ブートイメージの作成.....	8
Dell クライアントドライバパッケージの作成.....	9
Dell Command Configure SCE パッケージのインポート.....	10
Dell Command Monitor のインポート.....	11
タスクシーケンスの作成.....	11
Dell クライアントの展開テンプレートを使用したタスクシーケンスの作成.....	12
タスクシーケンス操作の設定.....	12
システム BIOS の設定.....	12
ターゲットシステムへの SCE の適用.....	13
章 3: Dell Command Intel vPro Out Of Band アプリケーション	15
ソフトウェアの前提条件.....	15
クライアントシステムの WinRM の設定.....	16
Dell Command Intel vPro Out of Band アプリケーションの起動.....	16
アカウントのセットアップ.....	16
クライアントの検出.....	16
設定.....	17
アカウントのセットアップ.....	17
インジケーション.....	17
KVM.....	18
タスクキュー.....	18
ロギング.....	18
リモートプロビジョニング.....	19
リモート プロビジョニングの前提条件.....	19
リモートプロビジョニングライセンス.....	19
リモートプロビジョニング証明書のセットアップ.....	19
リモートプロビジョニング機能の設定.....	20
リモートプロビジョニング用の Intel vPro クライアントシステムの準備.....	20
リモートクライアントシステムのプロビジョニング.....	20
USB プロビジョニング.....	21
USB デバイスを使用したプロビジョニング.....	21
インジケーション.....	21
推奨フィルタとオプションフィルタ.....	22

ポリシー.....	22
サブスクリプションの設定.....	23
サブスクリプションのステータス.....	25
イベント.....	26
クライアントの設定.....	27
電源プロファイルの設定.....	27
起動順序の設定.....	27
BIOS の設定.....	28
BIOS パスワードの設定.....	29
操作.....	29
KVM セッションの確立.....	29
電力管理の実行.....	30
クライアントデータの消去.....	30
レポートの生成.....	32
レポートのスケジュール.....	32
レポートの取得.....	32
タスクキュー.....	33
章 4: トラブルシューティング.....	34
Authenticode 署名.....	34
ワイヤレス KVM.....	34
ハードウェアインベントリレポートのメモリ速度がゼロとして報告される.....	34
最大パスワード長さの変更.....	35
S3 での OS 起動のための KVM 電源制御.....	35
オペレーティングシステムの適用 タスクシーケンス操作に赤色の感嘆符が表示される.....	35
章 5: 関連リファレンス.....	36
テクニカルサポートの利用法.....	36
デルへのお問い合わせ.....	36

はじめに

この文書では、Microsoft System Center Configuration Manager を実行しているシステム上の Dell Command | Integration Suite for System Center で実行できるアクティビティを説明します。

トピック：

- [新機能](#)
- [主な機能と機能性](#)
- [サポートされる System Center Configuration Manager のバージョン](#)
- [対応オペレーティングシステム](#)

新機能

このリリースの Dell Command | Integration Suite for System Center は、次の新機能をサポートします。

- Dell Command | Intel vPro Out of Band アプリケーション内からインテル セットアップアンド コンフィグレーション ソフトウェアをアップグレードする機能の追加
- Dell システム管理アプリケーションの作成および導入を可能にする Software Gallery の追加
- 対応オペレーティング システムのリストの更新

主な機能と機能性

特長	説明
リモート プロビジョニング	インテル vPro 対応クライアントの AMT プロビジョニングをリモートで実行します。
Windows Preinstallation Environment (WinPE) の設定	カスタマイズされたオペレーティング システムのイメージをクライアント システムに設定、プッシュします。WinPE 環境の設定に関する詳細については、「 Dell WinPE 起動イメージの作成 」を参照してください。
Dell クライアント ドライバ パッケージの作成とインポート	デルのシステム カタログと WinPE ドライバ cab ファイルへの効率化されたアクセスを使用して、カスタマイズされたドライバ パッケージをクライアント システムに設定し、プッシュします。Dell クライアント ドライバ パッケージを作成する方法の詳細については、「 Dell クライアント ドライバ パッケージの作成 」を参照してください。
Dell Command Monitor の統合	アプリケーションのリモート管理、管理下ノード情報へのアクセス、クライアントの状態の管理、クライアント イベントのアラート受信などの Dell Command Monitor 機能を使用します。Dell Command Monitor 統合の詳細については、「 Dell Command Monitor のインポート 」を参照してください。
Dell Command Configure	Dell Command Configure Self Contained Executable (SCE) パッケージを使用して、オペレーティング システムが存在する環境において、OptiPlex、Latitude、Dell Precision などの Dell クライアント システムの BIOS を設定します。
Dell Command Intel vPro Out Of Band アプリケーション	インテル アクティブ マネジメント テクノロジー(AMT)を使用した、帯域外管理機能。これは、Configuration Manager サーバで実行されているスタンドアロン アプリケーションを介してサポートされています。この機能は、オペレーティング システムの状態に関係なく、クライアント システムをリモートかつ自動で管理するためのコア機能を提供します。Intel vPro Out Of Band 管理の詳細については、「 Dell Intel vPro Out of Band プラグイン 」を参照してください。
Dell Command Warranty	デルのサポート用 Web サイトから Dell クライアント コンピューターの保証情報を収集します。Dell Warranty Information Utility の詳細については、「 dell.com/support/manuals 」の『 <i>Dell Command Warranty User's Guide</i> 』を参照してください。
配布ポイント	配布ポイントを管理および更新して、ネットワーク内のクライアント システムにドライバやその他のアプリケーションをプッシュするためのシンプルな手順です。

サポートされる System Center Configuration Manager のバージョン

Dell Command | Integration Suite for System Center は、次のバージョンの Configuration Manager をサポートします。

- Microsoft System Center 2012 Configuration Manager
- Microsoft System Center 2012 SP1 Configuration Manager
- Microsoft System Center 2012 R2 Configuration Manager
- Microsoft System Center Current Branch Configuration Manager

メモ: Dell Command | Integration Suite for System Center バージョン 4.0 以降は、Microsoft System Center Configuration Manager の旧バージョンと後方互換性はありません。デルでは、Dell Client Integration Pack 3.1 を Configuration Manager 2007 とともに dell.com/download からダウンロードして使用することをお勧めします。

対応オペレーティングシステム

次の表に、このアプリケーションの対応オペレーティングシステムのタイプと具体的なバージョンを示します。

対応クライアントオペレーティングシステム

- Windows 10 32 ビット
- Windows 10 64 ビット
- Windows 10 Professional 32 ビット
- Windows 10 Professional 64 ビット
- Windows 10 Enterprise 32 ビット
- Windows 10 Enterprise 64 ビット
- Windows 8.1 32 ビット
- Windows 8.1 64 ビット
- Windows 8.1 Professional 32 ビット
- Windows 8.1 Professional 64 ビット
- Windows 8.1 Enterprise 32 ビット
- Windows 8.1 Enterprise 64 ビット
- Windows 8 32 ビット
- Windows 8 64 ビット
- Windows 8 Professional 32 ビット
- Windows 8 Professional 64 ビット
- Windows 7 Professional 32 ビット
- Windows 7 Professional 64 ビット
- Windows 7 Ultimate 32 ビット
- Windows 7 Ultimate 64 ビット

AMT で管理されたクライアントシステムの対応オペレーティングシステム

- Windows 10
- Windows 8.x
- Windows 7

対応サーバオペレーティングシステム

- Windows Server 2019
- Windows Server 2016
- Windows Server 2012 R2
- Windows Server 2012

Dell Command | Integration Suite for System Center の使用

Dell Command | Integration Suite for System Center の使用を開始する前に、ターゲットの Dell クライアントシステムが Configure Manager クライアントとして登録されており、Configuration Manager コンソールの **すべてのシステム** の下に存在していることを確認します。Configuration Manager によるクライアント設定の詳細については、Microsoft TechNet サイト (technet.microsoft.com/ja-jp/library/gg682144) を参照してください。

Dell Command | Integration Suite for System Center を使用して以下のタスクを実行できます。

- Dell Windows PE ブートイメージの作成
- Dell クライアントドライバパッケージの作成
- Dell クライアントパッケージのインポート
- ペアメタルタスクシーケンスの作成

トピック：

- [配布ポイントの管理とアップデート](#)
- [Dell WinPE ブートイメージの作成](#)
- [Dell クライアントドライバパッケージの作成](#)
- [Dell Command | Configure SCE パッケージのインポート](#)
- [Dell Command | Monitor のインポート](#)
- [タスクシーケンスの作成](#)
- [タスクシーケンス操作の設定](#)

配布ポイントの管理とアップデート

タスクシーケンスを作成する前に、配布ポイントをアップデートします。配布ポイントをアップデートして管理するには、次の手順を実行してください。

1. Configuration Manager コンソールを起動します。
2. ソフトウェアライブラリ をクリックします。
3. **概要 > アプリケーション管理** を展開します。パッケージ を展開し、**Dell クライアントの展開** をクリックします。
4. クライアントカスタム再起動スクリプト を右クリックし、コンテンツの**配布** をクリックします。コンテンツの**配布ウィザード** 画面が表示されます。
5. **次へ** をクリックし、画面に表示される指示に従って、配布ポイントにコンテンツを配布します。
6. パッケージの作成時にパッケージが配布されなかった場合は、手順 3 と手順 4 を繰り返して、クライアントシステムがオペレーティングシステムのインストール中にパッケージにアクセスできることを確認します。

Dell WinPE ブートイメージの作成

Dell Command | WinPE Driver Library Import 機能では、次の 2 つの方法で Dell Windows Preinstallation Environment (WinPE) ブートイメージを作成できます。合理的な **Dell アップデート / サポートサイト** インポートオプションを使用して、WinPE ブートイメージに自動的に取り込まれるため一度に最大 5 つの cab ファイルをインポートする。**ローカルドライバライブラリ** オプションを使用して、一度にローカルに格納された cab ファイルに含まれるドライバをインポートする。

メモ: Dell WinPE ブートイメージを作成するために管理者権限のあるアカウントを使用する必要があります。管理者権限がないユーザーアカウントの SMS を共有し、インストールフォルダに関連する権限エラーが発生します。

メモ: ローカルドライバライブラリ オプションを使用している場合は、このセクションの次の手順を実行する前に、Dell.com/downloads から Dell Command | Deploy (WinPE) Driver ライブラリファイルをダウンロードする必要があります。**Dell アップデート / サポートサイト** オプションを使用して WinPE パッケージにドライバライブラリを挿入する場合は、下記のプロセスの前にドライバライブラリファイルをダウンロードする必要はありません。

メモ: この機能を続行する前に、Microsoft Windows デプロイメントキットがインストールされていることを確認します。

1. Configuration Manager コンソールを起動します。
2. ソフトウェアライブラリ をクリックします。
3. **概要 > オペレーティングシステム** を展開します。
4. [**起動イメージ**] を右クリックし、[**Dell Command | WinPE ドライバー ライブラリー インポート**] をクリックします。
WinPE ドライバライブラリーインポートウィザード が開きます。
5. ドライバライブラリのソースを選択します。
 - **Dell アップデート/サポートサイト - 現在のインターネットプロキシ設定を使用** または **カスタムプロキシ設定を使用** のいずれかのオプションを選択します。カスタムオプションを選択する場合は、プロキシサーバの URL または IP アドレスおよびプロキシポート番号も入力します。プロキシ認証を使用する場合は、ユーザー名と、オプションでパスワードを入力します。

Dell Command | Deploy Driver Pack Catalog および該当する WinPE ドライバライブラリが Dell サポートサイトからダウンロードされます。

または
 - **ローカルドライバライブラリ - 参照** をクリックし、ローカルに保存されている Dell Command | Deploy ドライバパッケージに移動します。
6. **次へ** をクリックします。
ドライバライブラリの**選択** 画面が開き、選択した *.cab ファイルが含まれるドライバライブラリが表示されます。任意の列ヘッダーをクリックして、ドライバライブラリテーブルをソートします。

メモ: 表示されるドライバライブラリーのリストは、デフォルトの Configuration Manager 起動イメージと同じバージョンか、または1つ前のバージョンのオペレーティングシステムに基づいて表示されます。
7. 最大2つのドライバライブラリを選択し、**次へ** をクリックします。
オプションの選択 画面が開きます。
8. ドライバを挿入する起動イメージを選択します。
9. デルドライバが WinPE 起動イメージパッケージに挿入されたら、起動イメージを自動的に配布するターゲット配布ポイントを選択します。
詳細については、「**配布ポイントの管理とアップデート**」を参照してください。
10. **UNC 宛先パスの指定** の下で、**参照** をクリックし、Dell WinPE ブートイメージを保存する場所に移動します。変更をデフォルトの UNC パスに置き換えるには、**デフォルトパスに復元** をクリックします。
11. オプションでツールの **.zip ファイル (最大 5MB)** を指定するには、**参照** をクリックして Dell WinPE ツールを含む zip ファイルに移動します。
12. **次へ** をクリックします。
概要 画面が表示されます。
13. **終了** をクリックします。
プログレスバーにインポートと Dell WinPE ブートファイルの作成ステータスが表示されます。

メモ: ドライバのインポートでは、特に複数のドライバパッケージをインポートする場合、長時間かかる可能性があります。

このセッションの **WinPE ブートイメージログを削除する** チェックボックスをオンにしていない場合には、トラブルシューティング目的で %PROGRAMDATA%\Dell\CommandIntegrationSuite\Logs\ DriverPackageLogs にインポートプロセスのログファイルが保持されます。
14. プロセスが完了したら、**閉じる** をクリックします。
WinPE ブートイメージが、選択した Dell ドライバを含むように更新されます。

Dell クライアントドライバパッケージの作成

Dell Command | Deploy Driver Package 機能を使用すると、2つの方法でドライバをインポートして、Dell クライアントドライバパッケージを作成できます。この方法としては、ドライバをインポートし、それらを一度に1つのローカル保存されるファイルにパッケージする方法と、合理化された複数 cab ファイルインポートオプションである Dell Command | Deploy Catalog を使用する方法があります。

メモ: Dell Client Driver Package を作成するために、管理者権限のあるアカウントを作成する必要があります。管理者権限のないユーザーアカウントでは、SMS シェアおよびインストールフォルダが関係する権限エラーが発生します。

1. Configuration Manager コンソールを起動します。

2. ソフトウェアライブラリ をクリックします。
3. **概要** > **オペレーティングシステム** を展開します。
4. ドライバパッケージ を右クリックし、**Dell Command | System** ドライバライブラリのインポート をクリックします。システムドライバライブラリインポートウィザード が開きます。
5. ドライバライブラリのソースを選択します。
 - **Dell アップデート/サポートサイト - 現在のインターネットプロキシ設定を使用** または **カスタムプロキシ設定を使用** のいずれかのオプションを選択します。カスタムオプションを選択する場合は、プロキシサーバの URL または IP アドレスおよびプロキシポート番号も入力します。プロキシ認証を使用する場合は、ユーザー名と、オプションでパスワードを入力します。

Dell Command | Deploy Driver Pack Catalog が、Dell サポートサイトからダウンロードされます。

または

 - **ローカルドライバライブラリ - 参照** をクリックし、ローカルに保存されている Dell Command | Deploy ドライバパッケージに移動します。
6. **次へ** をクリックします。
ドライバライブラリの**選択**画面が開き、選択した cab ファイルに含まれるドライバライブラリが表示されます。
7. 列ヘッダーをクリックすることで、ドライバライブラリテーブルをソートしてから、フィルタを使用してテーブルに表示されるドライバライブラリの数を制限します。フィルタフィールドは次のとおりです。
 - オペレーティングシステム
 - アーキテクチャ
 - 品目 (Lob)
 - リリース日付範囲
8. **フィルタ** をクリックして、使用可能なドライバライブラリに選択した制限を適用します。
9. 1 ~ 5 個のドライバライブラリを選択し、**次へ** をクリックします。
オプションの選択画面が開きます。
10. ドライバパッケージを作成後に、それを自動的に配布するには、ターゲットの配布ポイントを選択します。
詳細については、「**配布ポイントの管理とアップデート**」を参照してください。
11. **UNC 宛先パスの指定** の下で、**参照** をクリックしてから Dell ドライバパッケージを保存する位置に移動します。変更をデフォルトの UNC パスに置き換えるには、**デフォルトパスに復元** をクリックします。

メモ: Microsoft Windows XP オペレーティングシステムの場合、**タスクシーケンスエディタ** の **ストレージドライバパッケージ** オプションが有効になります。Microsoft Windows XP システムの展開中に適切なストレージドライバを選択して、エラー 0x0000007B (INACCESSIBLE_BOOT_DEVICE) による連続再起動を回避します。適切なストレージドライバ選択の詳細については、**delltechcenter.com** の Dell TechCenter サイトを参照してください。
12. **次へ** をクリックします。
概要画面が表示されます。
13. **終了** をクリックします。
プログレスバーに、パッケージの作成と展開のステータスが表示されます。選択されたオペレーティングシステムのアーキテクチャに基づいて、ドライバパッケージが作成され、Dell System CAB Driver Packages フォルダの下に保存されます。

メモ: ドライバのインポートでは、特に複数のドライバパッケージをインポートする場合、長時間かかる可能性があります。
14. プロセスが完了したら、**閉じる** をクリックします。

Dell Command | Configure SCE パッケージのインポート

Dell Command | Configure Self-Contained Executable (SCE) ファイルを使用すると、次のことができます。

- 設定のカスタマイズ
- カスタマイズ済みの設定をエクスポートして、同じ設定をターゲットのクライアントシステムに適用
- サポート対象と非サポート対象の両方のオプションをエクスポート
- お使いの BIOS 設定をカスタマイズ

Dell Command | Configure SCE パッケージをインポートするには、次の作業を行います。

1. Configuration Manager コンソールを起動します。
2. ソフトウェアライブラリ をクリックします。

3. **概要 > アプリケーション管理** を展開します。
4. パッケージを右クリックしてから、**Dell Command | Integration Suite > Dell Command | Configure** パッケージのインポートをクリックします。
Dell Command | Configure パッケージインポートウィザード画面が表示されます。
5. **参照** をクリックして、Dell Command | Configure SCE ファイルの場所に移動します。
メモ: Dell Command | Configure SCE ファイルは、Dell Command | Configure からカスタマイズ済みの設定をエクスポートすることで生成されます。詳細については、dell.com/support の『*Dell Command | Configure ユーザーズガイド*』を参照してください。
6. **配布ポイントを選択して管理とアップデートを実行** の下で、利用可能なリストから配布ポイントを選択し、パッケージが作成されたら自動的に配布されるようにします。
7. **OK** をクリックします。
Configuration Manager にパッケージがすでに存在する場合は、再作成するか続行するかを尋ねるメッセージが表示されます。いいえを選択した場合は、パッケージは再作成されません。それ以外の場合は、パッケージが Configuration Manager から削除されて、新しいパッケージが作成されます。
メモ: 無効な SCE ファイル というメッセージが表示される場合は、ステップ 5 で有効な SCE パッケージを選択します。
プロセスが完了すると、新しいパッケージが作成されます。
メモ: 新規作成されたパッケージの詳細を表示するには、Configuration Manager コンソールで **パッケージ > Dell クライアント** パッケージを参照します。新規作成されたパッケージは Dell クライアントパッケージの下にあります。
8. ウィザードが完了した後、Dell Command | Configure SCE ソフトウェアパッケージが **パッケージ** の下に作成されます。これらのパッケージを OS 展開前のタスクシーケンスに関連付けするか、OS 設定後にそれらを使用します。

Dell Command | Monitor のインポート

Dell Command | Monitor をインポートするには、次の手順を実行します。

1. dell.com/download から **Dell Command | Monitor** アプリケーションをダウンロードします。
2. Configuration Manager コンソールを起動します。
3. **ソフトウェアライブラリ** をクリックします。
4. **概要 > アプリケーション管理** を展開します。
5. パッケージを右クリックしてから、**Dell Command | Integration Suite > Dell Command | Monitor** パッケージのインポートをクリックします。
Dell Command | Monitor パッケージインポートウィザード画面が表示されます。
6. **Dell Update Packages(DUP)ファイル** を指定して **パッケージを作成する** の下で、**参照** をクリックして、Dell Command | Monitor DUP ファイルをダウンロードした場所に移動し、**開く** をクリックします。
7. **配布ポイントを選択して管理とアップデートを実行** の下で、利用可能なリストから配布ポイントを選択し、Dell Command | Monitor DUP ファイルが作成されたら自動的に配布されるようにします。
8. **OK** をクリックします。
プログレスバーが表示されます。
9. **閉じる** をクリックします。
Dell Command | Monitor DUP ファイルが **パッケージ** の下にインストールされます。

タスクシーケンスの作成

タスクシーケンスは、オペレーティングシステムイメージのキャプチャ、その設定、および Dell クライアントシステムのセットへのイメージの導入に使用されます。タスクシーケンスは、次の 2 とおりの方法で作成できます。

- **クライアントオペレーティングシステム展開タスクテンプレート** テンプレートを使用して、事前に指定されたアクションのセットを持つ、デル固有のタスクシーケンスを作成します。
- タスクシーケンスにカスタムアクションを追加可能なカスタムタスクシーケンスを作成します。

Dell クライアントの展開テンプレートを使用したタスクシーケンスの作成

Dell クライアントの展開テンプレートを使用してタスクシーケンスを作成するには、以下の作業を行います。

1. Configuration Manager コンソールを起動します。
2. ソフトウェアライブラリ をクリックします。
3. **概要** > **オペレーティングシステム** を展開します。
4. 右クリックして **タスクシーケンス** をクリックしてから、**Dell Command | Integration Suite** > **オペレーティングシステム展開タスクシーケンスの作成** をクリックします。
クライアントオペレーティングシステム展開タスクテンプレート ウィンドウが表示されます。
5. **タスクシーケンス名** フィールドにタスクシーケンス名を入力します。
6. **クライアントハードウェア設定** で、このタスクシーケンスで設定するハードウェアアイテムを選択します。
メモ: **BIOS 設定** チェックボックスを選択し、Dell Command | Configure パッケージがすでに作成されている場合は、システム BIOS を設定する際に、タスクシーケンステンプレートが作成されます。Dell Command | Configure パッケージがデフォルトで選択され、SCE をターゲットのシステムで実行するコマンドラインが自動的に入力されます。ただし、Dell Command | Configure パッケージが作成されていない場合は、Dell Command | Configure パッケージが検出されないというメッセージが表示されます。それでもシステム BIOS は設定できますが、パッケージは選択されません。
7. **ネットワーク (管理者) アカウント** の下で、ドメイン管理者のアカウント名およびパスワードを入力します。
8. **オペレーティングシステムのインストール** で、オペレーティングシステムのインストールタイプを選択します。オプションは次のとおりです。
 - OS WIM イメージを使用
 - スクリプトによる OS インストール
9. **使用するオペレーティングシステムパッケージ** ドロップダウンメニューから、オペレーティングシステムパッケージを選択します。
10. Windows XP オペレーティングシステムを展開する場合は、**Sysprep.inf 情報付きのパッケージ** ドロップダウンメニューから **sysprep.inf 情報ファイル** を選択します。
11. **作成** をクリックします。
確認メッセージが表示されます。

タスクシーケンス操作の設定

タスクシーケンス内でアクションを編集するには、タスクシーケンスエディタから **クライアントオペレーティングシステム展開タスクテンプレート** を選択します。

システム BIOS の設定

Dell クライアントの設定 を追加したあとに、**BIOS 設定** オプションがタスクシーケンスで有効になります。BIOS パッケージを作成するために、Dell Command | Configure バージョン 3.0 以降がターゲットシステムにインストールされていることを確認します。

メモ: BIOS を設定する際に、複数の Dell Command | Configure パッケージが存在する場合は、最新の Dell Command | Configure パッケージが選択されます。より古いパッケージは、**Dell Client Packages** の下にあります。より古いパッケージを選択するには、タスクシーケンスを設定する際に、**参照** をクリックして、より古いパッケージを選択します。タスクシーケンス作成の詳細については、「**タスクシーケンスの作成**」を参照してください。

メモ: クライアントシステムの **起動モード 切り替え** (UEFI とレガシー BIOS の両方) は、タスクシーケンスエディタでサポートされていません。詳細については、technet.microsoft.com/ja-jp/library/jj938037.aspx を参照してください。

BIOS 設定ファイルのエクスポート

Dell Command | Configure スタンドアロンアプリケーションを起動します。詳細については、dell.com/support にある『*Dell Command | Configure ユーザーズガイド*』を参照してください。

エクスポートするための前提条件

以下は、エクスポートするための前提条件です。

- BIOS オプションが設定されている。
- オプションの **設定を適用する** チェックボックスが選択されている

次の形式で、設定をエクスポートします。

- **自己完結型の実行可能ファイル (SCE) - 設定の作成** 画面の **Configuration.exe** のエクスポート をクリックして、設定を SCE (.exe ファイル) としてエクスポートします。

ユーザーにオプションのパスワードの入力を求める **検証パスワード** ダイアログボックスが表示されます。ターゲットシステムにシステムまたはセットアップパスワードが設定されている場合は、**検証パスワード** ダイアログボックスに同じシステムまたはセットアップパスワードを入力します。

- **レポート - レポートをエクスポート** をクリックして、設定を読み取り専用 *.html ファイルとしてエクスポートします。エクスポートファイルで、システムまたはセットアップパスワードを設定している場合、「**パスワード保護ダイアログボックス**」を参照してください。
- **設定ファイル - 設定のエクスポート** をクリックして、*.cctk または *.ini ファイルとして設定をエクスポートします。エクスポートファイルで、システムまたはセットアップパスワードを設定している場合、「**パスワード保護ダイアログボックス**」を参照してください。
- **シェルスクリプト** - シェルスクリプトは、Linux システムの設定に使用されます。シェルスクリプトは SCE ファイルがエクスポートされるのと同じ場所に生成され、SCE ファイルと同じ設定が含まれます。

値を設定しないエクスポートオプション

任意の値を指定しないで、特定のオプションをエクスポートできます。オプションには、**asset** と **propowntag** があります。

値を指定しないで **asset** および **propowntag** をエクスポートするには、対応するオプションの **設定を適用する** チェックボックスを選択して、エクスポートします。

パスワード保護ダイアログボックス

エクスポートファイル (設定ファイルまたはレポート) で、システムまたはセットアップパスワードを設定した場合、パスワード保護ダイアログボックスが表示されます。パスワード付きのファイルをクリアテキストとしてエクスポートするには、**続行** をクリックします。パスワードおよびエクスポートを非表示にするには、**マスク** をクリックします。設定ファイル (.cctk または .ini) のパスワードを非表示することを選択した場合、**setuppwd** には、パスワードが非表示であることを示す **<パスワード除去>** と表示されます。

ターゲットシステムへの SCE の適用

次の方法のいずれかで、ターゲットシステムに SCE を適用できます。

- Dell Command | Configure アプリケーションパッケージの使用。詳細については、「[Dell Command | Configure SCE のインポート](#)」を参照してください。

または、

- Dell Command | Configure スタンドアロンアプリケーションの使用。詳細については、「[スタンドアロンアプリケーションの使用](#)」を参照してください。

スタンドアロンアプリケーションの使用

次のいずれかの方法で、Dell Command | Configure スタンドアロンアプリケーションを使用するターゲットシステムに SCE を適用できます。

- SCE をダブルクリックするか、
- コマンドプロンプトから、SCE があるディレクトリに移動して、SCE ファイルの名前を入力します。

例：

```
C:\Windows\DCC\SCE>"<filename>"
```

SCE は、ターゲットシステムに設定をサイレントインストールします。インストールが完了すると、SCE は同じ場所に同じ名前でテキストファイルを生成します。テキストファイルには、適用済みのすべてのオプションおよび SCE ファイルの実行状態が含まれています。

ターゲットシステムにセットアップまたはシステムパスワードを設定している場合、および SCE をエクスポートする際に **検証パスワード** ダイアログボックスのものと同一パスワードを提供していない場合は (詳細は、「[BIOS 構成ファイルのエクスポート](#)」を参照)、SCE はターゲットシステムに適用できません。ただし、SCE をコマンドプロンプトから適用する際は、ターゲットシステムのセットアップまたはシステムパスワードを提供できます。

セットアップパスワードの提供例

```
C:\Windows\DCC\SCE>"<filename>" --valsetuppwd=<password string>
```

システムパスワードの提供例

```
C:\Windows\DCC\SCE>"<filename>"--valsyspwd=<password string>
```

オペレーティングシステムイメージの適用

① メモ: この作業を始める前に、Configuration Manager の **オペレーティングシステムイメージ** ツリーに必要なオペレーティングシステムイメージファイル (**.wim** ファイル) があることを確認してください。

オペレーティングシステムイメージを適用するには、次の手順を実行してください。

1. **タスクシーケンスエディタ** の左ペインの **オペレーティングシステムの展開** で、**オペレーティングシステムイメージの適用** をクリックします。
2. 次のオプションから選択します。
 - 取り込んだイメージからオペレーティングシステムを適用する
 - 元のインストールソースからオペレーティングシステムを適用する
3. **参照** をクリックして、オペレーティングシステムイメージまたはパッケージを選択します。
4. この **オペレーティングシステムを適用する場所を選択する** の下で、**宛先** と **ドライブ文字** を選択します。
5. **OK** をクリックします。

オペレーティングシステムイメージが正常に適用されました。

ドライバパッケージの適用

ドライバパッケージを適用するには、次の手順を実行します。

1. **タスクシーケンスエディタ** の左側にある **オペレーティングシステムの展開** で **ドライバパッケージの適用** をクリックします。
2. **Dell クライアントドライバパッケージ** を **参照** して、選択します。 **Dell Deployment Pack** で使用可能なドライバパッケージのリストが表示されます。
3. Dell クライアントシステムのパッケージを選択して、**適用** をクリックします。

ドライバが正常に追加されました。

Dell Command | Intel vPro Out Of Band アプリケーション

Dell Command | Intel vPro Out of Band アプリケーションは、Dell Command | Integration Suite for System Center を実行するシステム上のスタンドアロンアプリケーションを通じて、Out Of Band 管理ソリューションを提供します。このアプリケーションを使用すると、システムの電源または操作状態に関わりなく、クライアントシステムをリモート管理できます。

Dell Command | Intel vPro Out of Band アプリケーションを使用して以下のタスクを実行できます。

- **リモートプロビジョニング** - お使いの環境を設定して、クライアントシステムのリモート AMT プロビジョニングを簡単に実行できるようにします。
- **USB プロビジョニング** - Intel AMT 対応クライアントシステムをプロビジョニングしてセットアップします。
- **インジケーション** - Distributed Management Task Force (DMTF) フィルタを使用して、クライアントをリモート監視、診断、および管理します。
- **クライアントの設定** - 次のクライアントシステムを設定します。
 - **電源プロファイル** - 優先する電源ポリシーを設定し適用します。
 - **起動順序** - 起動順序を設定または変更します。
 - **BIOS 設定** - BIOS 設定を設定および更新します。
 - **BIOS パスワード** - お使いの **管理者** および **システム** パスワードをクリア、設定、またはそれらの長さを指定します。
- **操作** - 次のリモート操作を実行します。
 - **KVM 接続** - KVM セッションを設定および実行します。
 - **電源管理** - 電源設定をリモートで管理します。
 - **クライアントデータの消去** - クライアントのハードドライブをリモートでフォーマットします。
- **レポート** - 帯域外管理、プロビジョニング済みシステム、バッテリーの正常性、およびハードウェア インベントリーのレポートを生成します。
- **タスクキュー** - タスクの進行状況と詳細を監視します

トピック：

- [ソフトウェアの前提条件](#)
- [クライアントシステムの WinRM の設定](#)
- [Dell Command | Intel vPro Out of Band アプリケーションの起動](#)
- [アカウントのセットアップ](#)
- [クライアントの検出](#)
- [設定](#)
- [リモートプロビジョニング](#)
- [USB プロビジョニング](#)
- [インジケーション](#)
- [クライアントの設定](#)
- [操作](#)
- [レポートの生成](#)
- [タスクキュー](#)

ソフトウェアの前提条件

Dell Command | Intel vPro Out of Band アプリケーションを実行する前に：

- 帯域内シャットダウンが正しく機能するために、Dell Command | Integration Suite for System Center を実行するシステムには、Windows PowerShell version 2.0 以降がインストールされていて、WinRM が設定されている必要があります。WinRM の設定方法の詳細については、「[クライアントシステムの WinRM の設定](#)」を参照してください。

クライアントシステムの WinRM の設定

リモートプロビジョニング機能を介してプロビジョニングされなかった作業中のクライアントシステムで、WinRm が設定されていなかった場合は、管理者のコマンドプロンプトで以下のコマンドを実行します。

① **メモ:** クライアントシステムのファイアウォールを設定して、WinRM コマンドを受け付けるようにします。

① **メモ:** 現在の WinRM 設定を取得するには、`winrm get winrm/config` コマンドを使用します。グループ ポリシー オブジェクト制御の設定を使用している場合、コマンドによってこの情報が表示されます。

1. 「`winrm quickconfig`」と入力します。
2. **Do you want to configure winrm?** プロンプトが表示されたら、`y` を押します。
3. `winrm set winrm/config/client @{AllowUnencrypted="true"}`
4. `winrm set winrm/config/client/auth @{Digest="true"}`
5. `winrm set winrm/config/client @{TrustedHosts="MANAGEMENT_SERVER_IP_ADDRESS"}`

WinRM が設定されます。

① **メモ:** Remote Provisioning を介してクライアントシステムをプロビジョニングするときは、WinRm がクライアントシステムで自動設定されます。

Dell Command | Intel vPro Out of Band アプリケーションの起動

Dell Command | Intel vPro Out of Band アプリケーションは、デフォルトで `C:\Program Files (x86)\Dell\CommandIntegrationSuite\DellCommandvProOutOfBand.exe` にインストールされます。

アカウントのセットアップ

Dell Command | Intel vPro Out of Band アプリケーションを最初に起動したときに、**アカウントのセットアップ** ウィンドウが表示されます。ここで、次を設定を行うことができます。

- ドロップダウンリストから、使用可能な **Configuration Manager SQL Serve** オプションを取得して選択します。
- 設定する SQL Server セキュリティのタイプを選択します (内蔵またはユーザー名/パスワード)。
- ドロップダウンリストから、使用可能な **Configuration Manager データベース** を取得して選択します。
- [**オペレーティングシステムのユーザー アカウント**] を設定します。
- [**AMT 管理ユーザー アカウント**] を設定します。

クライアントの検出

Dell Command | Intel vPro Out of Band アプリケーションを初めて起動し、アカウントの設定を行った直後に、ソフトウェアは次の処理を実行します。

- Configuration Manager .mof ファイルを更新し、Dell ハードウェア インベントリ クラスを Configuration Manager に追加します。
- Configuration Manager で、**vPro-AMT Capable**、**vPro-AMT Provisioned-Compliant**、および **vPro-AMT Provisioned-Not Compliant** デバイス コレクションを作成します。
- Configuration Manager で、**vPro-AMT ACUConfig Package** を作成します。
- Configuration Manager で、**vPro-AMT Discover Client** タスク シーケンスを作成します。

Configuration Manager からクライアント システムの AMT 機能とプロビジョニング ステータスを検出するには、次の手順を実行します。

1. vPro-AMT Discover Client タスク シーケンスのコンテンツを配布することにより、**vPro-AMT ACUConfig Package** パッケージを配布します。
2. デバイス コレクションに **vPro-AMT Discover Client** タスク シーケンスを導入します。

vPro-AMT Discover Client タスク シーケンスは、対象のデバイス コレクション内のすべてのクライアント システムで実行され、クライアント システムは最終的には3つの「vPro-AMT」デバイス コレクションのいずれかに入ります。デバイス コレクシ

ョンにクライアントが表示されるまで数分かかる場合があります。デバイス コレクションのメンバーシップを手動で更新するか、または Configuration Manager 管理コンソールを再起動してデバイス コレクションを更新することが必要な場合があります。

メモ: **vPro-AMT Provisioned - Compliant** デバイス コレクションに入るすべての Dell クライアント システムは、Dell Command | Intel vPro Out of Band アプリケーションの操作の **使用可能なクライアントリスト** にも表示されます。

メモ: Dell Command | Integration Suite for System Center の旧バージョンからアップグレードした場合、または Dell Command | Intel vPro Out of Band を使用してインテル セットアップ アンド コンフィグレーション ソフトウェアを後でアップグレードする場合は、Configuration Manager 内に複数のバージョンの **vPro-AMT ACUConfig Package** パッケージおよび **vPro-AMT Discover Client** タスク シーケンスが表示されることがあります。コンテンツの配布時やタスク シーケンスの導入時では、これらのオブジェクトの最新バージョンのインスタンス (たとえば v2 ではなく v3) を使用することをお勧めします。

設定

設定 ウィンドウでは、次のような、アプリケーションのさまざまなコンポーネントのプリファランスを設定できます。

- アカウントのセットアップ
- インジケーション
- KVM
- タスクキュー
- ロギング

アカウントのセットアップ

AMT 対応クライアントシステムを管理するアカウントを設定できます。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band アプリケーションを起動します。
2. 設定アイコンをクリックします。
3. 設定画面に、**アカウントのセットアップ** タブが表示されます。
4. 次を設定することができます。
 - **Configuration Manager SQL Server** 情報を設定します。
 - **Configuration Manager データベース** 情報を設定します。
 - **オペレーティングシステムのユーザーアカウント** 情報を設定します。
 - **AMT 管理ユーザーアカウント** 情報を設定します。
5. **OK** をクリックします。

インジケーション

保持日数およびリスナー IP アドレスなどのインジケーション設定を設定します。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band アプリケーションを起動します。
2. 設定アイコンをクリックします。
設定画面に、**インジケーション** タブが表示されます。
3. 次を設定します。
 - **保持日数** - クライアントイベントがデータベースに保存される日数であり、最小 7 日から最大 180 日の範囲です。イベントは、保持期間が経過すると削除されます。
 - **再試行日数** - インジケーションサービスがクライアント上の AMT サービスに接続を試みる日数。再試行日数のデフォルトおよび最大数は両方とも 3 日です。
 - **1 日あたりの再試行回数** - インジケーションサービスがクライアント上の AMT サービスに接続を試みる 1 日あたりの回数。1 日あたりの最大試行回数およびデフォルトは、いずれも 3 回です。
 - **リスナー IP アドレス** - 使用可能なローカルサーバの IP アドレスから選択して、リスナー IP アドレスを指定します。デフォルトは、利用可能なローカルサーバ IP アドレスのリストの最初の IP アドレスです。
 - メモ:** アクティブなサブスクリプションを実行している場合は、リスナー IP アドレスまたはポート番号は変更できません。
 - **ポート番号** - リスナー IP アドレスのポート番号です。デフォルト値は 65000 です。

4. **OK** をクリックします。

すべてのサブスクリプションの解除

すべてのサブスクリプションの解除 ボタンを使用して、インジケーション操作がネットワークパフォーマンスに負の影響を及ぼしている場合や、輻輳を削減したい場合にすべてのクライアントからすべてのサブスクリプションを解除します。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band アプリケーションを起動します。
2. 画面の右上の設定アイコンをクリックします。
設定画面に、インジケーション タブが表示されます。
3. すべてのサブスクリプションの解除 をクリックします。
 **メモ:** すべてのサブスクリプションを解除するには、現在サブスクリプションを実行しているクライアント数に応じて、しばらく時間がかかる場合があります。

KVM

KVM およびユーザー同意セッションがタイムアウトする時間を指定できます。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band アプリケーションを起動します。
2. 設定アイコンをクリックします。
3. 設定画面で、**KVM** をクリックします。
KVM タブが表示されます。
4. ユーザー同意応答タイムアウト を使用して、ユーザー同意セッションがタイムアウトする時間を指定します。
5. セッションタイムアウトを使用して、一定時間操作がない場合に、KVM セッションがタイムアウトする時間を指定します。
 **メモ:** 値をゼロに設定すると、セッションのタイムアウトが無効になります。
6. **OK** をクリックします。

タスクキュー

この機能により、タスクキュー ウィンドウに表示される完了したタスクの数を制限することができます。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band アプリケーションを起動します。
2. ホーム画面で、設定アイコンをクリックします。
3. 設定画面で、タスクキュー をクリックします。
タスクキュー タブが表示されます。
4. タスクキューを自動更新させるには、**自動更新** を **オン** に切り替えます。
5. 履歴の制限 をデータベースに保持するタスクの数 (1 ~ 1000) に設定します。
 **メモ:** 新規タスクが作成されるとき、完了済み、キャンセル済みまたは中止されたタスクだけが削除されます。
6. **OK** をクリックします。

ロギング

Dell Command | Intel vPro Out of Band によって取得するロギングレベル、およびログの場所のプリファランスを設定します。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band アプリケーションを起動します。
2. ホーム画面で、設定アイコンをクリックします。
3. 設定画面で、ロギング をクリックします。
ロギング タブが表示されます。
4. ログレベルド롭ダウンメニューから以下のいずれかのオプションを選択します。
 - なし - ログがキャプチャされません。
 - 標準 - 正常に動作するクライアントシステムの通常のロギング。この ログレベル は推奨される設定です。
 - デバッグ - 予期しない問題をトラブルシューティングするための詳細なロギング。

5. **参照...** をクリックして、ログファイルが作成される場所を選択します。
6. 既存のログを表示するには、**フォルダの表示** をクリックします。
7. **OK** をクリックします。

リモートプロビジョニング

リモートプロビジョニングにより、Intel vPro 対応の AMT プロビジョニングをリモート実行することができます。

メモ: リモートプロビジョニングを使用する前に、リモートプロビジョニング機能のマニュアル全体をお読みください。

リモートプロビジョニングの前提条件

リモートプロビジョニング機能を使用するには、次の項目を確認してください。

- Active Directory、認証機関、Configuration Manager の管理者権限を持つドメイン管理者ユーザーであること。
- Configuration Manager の管理コンソールがインストールされている Configuration Manager プライマリ サイト サーバ上で実行中であること。
- インテル セットアップ アンド コンフィグレーション ソフトウェア (SCS) がプロビジョニング システムにインストールされていないこと。
- インテル セットアップ アンド コンフィグレーション ソフトウェア バージョン 12.1以降をダウンロード済みであること。インテル SCS は、<https://www.intel.com/content/www/us/en/software/setup-configuration-software.html> でダウンロードできます。
- インテル vPro 対応クライアントに、最新のインテル MEI ドライバおよびローカル管理サービスがインストールされていること。これらのコンポーネントは通常工場出荷時にインストールされていますが、dell.com/support からダウンロードできます。
- インテル vPro 対応クライアント システムが、Configuration Manager クライアントとして登録されていること。
- 信頼できるサードパーティの認証局からの AMT プロビジョニング証明書を使用する場合は、「[リモートプロビジョニング証明書のセットアップ](#)」を参照してください。自己署名の AMT プロビジョニング証明書を使用する場合は、証明書を作成し、リモートプロビジョニングの構成プロセスのため、およびリモート設定する各 vPro 対応クライアントへのハッシュの手动挿入のために手元に用意しておく必要があります。

リモートプロビジョニングライセンス

リモートプロビジョニング機能を有効にするには、ライセンスプロセスを完了する必要があります。

ライセンスプロセスを完了するには、次の操作を行います。

1. **ライセンス要求の作成** をクリックします。
ライセンス要求の作成 フォームが開きます。
2. フォームで、ドメイン名、組織名、および示された場合にはご使用の電子メールアドレスを入力します。
3. **ライセンスファイルの作成** をクリックして、生成された LicenseReq.xml ファイルをハードドライブに保存します。
4. LicenseReq.xml ファイルを添付して、電子メールを **AMTProvisioning@dell.com** 宛に送信します。
5. デルからライセンスファイルを受け取ったら、**ライセンスファイルのインポート** ボタンをクリックして、ライセンスファイルをインポートしてリモートプロビジョニングを有効にします。

メモ: デルからライセンスファイルを受け取るには、手動プロセスと同様に、数日かかる場合があります。

リモートプロビジョニング証明書のセットアップ

AMT リモートプロビジョニング機能を使用するには、有効な AMT プロビジョニング証明書が必要です。有効な証明書は、信頼されたサードパーティの認証局 (CA) から取得するか、または自己署名付き証明書、またはその両方である必要があります。

信頼されたサードパーティの認証局 (CA) から AMT プロビジョニング関連のサーバ証明書ファイルを取得するには、次の手順を実行します。

1. 証明書署名要求 (CSR) テキストファイルを作成します。
 - a. **CSR ファイルの作成** をクリックします。

- b. **証明書署名要求 (CSR) ファイルの作成** フォームに、**共通名、組織名、市区町村、都道府県、および国コード** を記入します。
 - c. **CSR ファイルの作成** をクリックします。
2. CSR ファイルを信頼できるサードパーティの CA に提出し、CA からサーバ証明書ファイルを取得します。
 - メモ:** CA からサーバ証明書ファイルを受け取るには、しばらく日数がかかる場合があります。
 3. CA から受け取った後で、取得したサーバ証明書ファイルをインポートするには、**PFX ファイルの作成** をクリックします。
 4. **個人情報交換 (PFX) ファイルの作成** フォームに、サーバ証明書ファイルへのパスおよび PFX ファイルパスワードを記入します。
 5. **PFX ファイルの作成** をクリックします。

リモートプロビジョニング機能の設定

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band アプリケーションを起動します。
2. **リモートプロビジョニングの設定** タブをクリックして、必要な情報を入力します。
3. **保存** をクリックしてから、**適用** をクリックします。

お使いの環境で、ソフトウェアによって次の変更が適用されます。

- Active Directory での次のオブジェクトの作成：
 - RCS 管理者ユーザー
 - AMT 管理者セキュリティグループ
 - AMT コンピュータ組織単位
- AMT Web サーバ証明書テンプレートを選択した認証局に追加
- インテル セットアップ アンド コンフィグレーション ソフトウェア (インテル SCS) のインストール
- 指定された証明書を RCS 管理者アカウントの個人ストアにインポート
- リモート設定サービス (RCS) に AMT プロファイルを作成
- Configuration Manager で 2 つのタスクシーケンスを作成

リモートプロビジョニング用の Intel vPro クライアントシステムの準備

リモートプロビジョニング設定プロセスの中で自己署名証明書を指定した場合は、その自己署名証明書のハッシュをリモートプロビジョニングのターゲットに予定しているクライアントシステムの MEBx に挿入します。

リモートクライアントシステムのプロビジョニング

Configuration Manager 管理コンソールから、次の操作を行います。

1. **vPro-AMT 対応** デバイスコレクションまたはカスタムデバイスコレクション上に **vPro-AMT クライアントの設定** タスクシーケンスを導入します。タスクシーケンスは、対象のデバイスコレクションのすべてのクライアントシステム上で実行され、AMT 用のクライアントシステムのプロビジョニングを試みます。

プロビジョニングされた後で、AMT クライアントは最終的に **vPro-AMT プロビジョニング対応** デバイスコレクションの下に表示されます。クライアントがデバイスコレクションに表示されるまでに数分かかる場合があります。
2. デバイスコレクションのメンバーシップを手動で更新するか、Configuration Manager 管理コンソールを再起動してデバイスコレクションを更新する作業が必要になる場合があります。
 - メモ:** ソフトウェアが **vPro AMT プロビジョニング対応** デバイスコレクションに配置するすべての Dell クライアントシステムは、Dell Command | Intel vPro Out of Band アプリケーションの操作の **利用可能なクライアント** リストにも表示されません。
 - メモ:** Dell Command | Integration Suite for System Center の旧バージョンからアップグレードした場合、または Dell Command | Intel vPro Out of Band を使用してインテル セットアップ アンド コンフィグレーション ソフトウェアを後でアップグレードする場合、Configuration Manager 内に複数のバージョンの vPro-AMT オブジェクトが表示されることがあります。タスクシーケンスの導入時には、これらのオブジェクトの最新バージョンのインスタンス (たとえば v2 ではなく v3) を使用することをお勧めします。

USB プロビジョニング

Intel Active Management Technology ベースのクライアントシステムで帯域外を管理する前に、AMT 用のクライアントシステムをプロビジョニングします。

USB デバイスを使用したプロビジョニング

リモート設定を使用して Intel vPro AMT 管理アプリケーションを導入する前に、ネットワーク上のクライアントシステムがデジタルプロビジョニング証明書を調達する必要があります。

USB ストレージデバイスを使用して、クライアントシステムに証明書のハッシュをエクスポートするには、次の手順に従います。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band アプリケーションを起動します。
2. **USB プロビジョニング** タブをクリックします。
3. **現在のパスワード** セクションに Management Engine (ME) パスワードを入力し、AMT 用の **新しいパスワード** を入力して確認します。
メモ: AMT パスワードには、大文字、小文字、数字、英数字以外の文字 (:、_、および " を除く) で構成される最低 8 文字を含める必要があります。
4. **USB キー** の下にある **参照** をクリックし、USB ストレージデバイスの場所をポイントします。
5. お使いの USB ストレージデバイスのファイル形式を選択します。
6. 管理者がクライアントシステムのユーザー同意ポリシーを上書きできるようにする場合は、**ユーザー同意ポリシーのリモート設定を有効にする** オプションを選択します。
7. 帯域外管理環境に必要な **ハッシュアルゴリズム** のタイプを選択します。
8. Hello パケットを直ちに送信する場合は、**OoB のプロビジョニング (有効化すると hello パケットが直ちに起動します)** オプションを選択します。
9. プロビジョニングされるシステムを記録するため、**消耗品レコード** オプションを選択します。
10. AMT プロビジョニング用にクライアントシステムに適用する **証明書ファイル** を参照して選択します。
11. 証明書ファイルの名前を入力します。
12. **キーの作成** をクリックします。
USB プロビジョニングキーが作成されます。
13. **エクスポート...** をクリックします。
USB プロビジョニングキーが USB ストレージデバイスにエクスポートされます。

インジケーション

Dell Command | Intel vPro Out Of Band アプリケーションでは、各クライアントを監視するために、Distributed Management Task Force (DMTF) フィルタ (インジケーション) を使用して、クライアントをリモートで監視、診断、および管理することが可能なインジケーション機能を提供します。

メモ: DMTF のフィルタの詳細については、DMTF のウェブサイト www.dmtf.org を参照してください。

インジケーションでは、次のような診断イベントを監視できます。

- マザーボードエラー
- CPU の障害です
- 電源装置障害です
- メモリサブシステムの障害

インジケーション機能には、次の機能があります。

- 設定 - 機能の設定データを設定します
- ポリシー - フィルタを 1 つ、または複数のクライアントに適用可能なポリシーに関連付けます。
- サブスクリプションの設定 - ポリシーをネットワーク上のクライアントに関連付け、ポリシーをクライアントに適用します
- サブスクリプションのステータス - サブスクリプションを表示して管理します
- イベント - イベントを表示、管理、およびエクスポートします

推奨フィルタとオプションフィルタ

一部のインジケーションは、メッセージ多用向けです。クライアントに適用される場合は、これらのフィルタで、大量のメッセージが生成される可能性があるため、十分注意して使用する必要があります。ネットワークの輻輳を避けるために、一度にネットワーク上の単一クライアントに1つのオプションのフィルタのみを適用することができます。サポートされているフィルタ：

推奨フィルタ

- Intel® AMT: CorePlatform

オプションフィルタ

 **注意:** 以下のオプションフィルタは、ネットワークパフォーマンスに影響を及ぼす可能性があるため、十分に注意して使用してください。これらのフィルタの最適な使用方法として、単一のオプションフィルタを短期間、特定のクライアントに適用することで問題の診断を行う、などがあります。

- なし - デフォルト
- Intel® AMT: Platform
- Intel® AMT: ME Presence
- Intel® AMT: Features
- Intel® AMT: User
- Intel® AMT: FW ProgressEvents
- Intel® AMT: All

ポリシー

ポリシー画面では、以前に作成されたインジケーションポリシーを表示したり、次のタスクを実行したりすることもできます。

- 新規ポリシーの作成
- ポリシーの編集
- ポリシーの削除

テーブルは、関連する列タイトルをクリックして、任意のフィールドを昇順または降順で並べ替えることができます。

ポリシーの作成

1. インジケーション > ポリシー をクリックします。
2. **新規** をクリックします。
ポリシーの作成画面が開きます。
3. 新しいポリシー名を入力します。この名前は、既存のポリシー名と同じにしてはならず、英数文字とスペースのみを含めることができ、最大64文字です。
4. ポリシーに含めるフィルタを選択します。新しいポリシーを作成するために少なくとも1つのフィルタを選択する必要がありますが、CorePlatform (推奨) フィルタとオプションフィルタの1つで構成される2つのフィルタを超えないようにする必要があります。一度のフィルタを使用するかの詳細については、「[推奨およびオプションフィルタ](#)」を参照してください。

 **メモ:** 与えられたポリシーに含めるために選択できるオプションフィルタは1つだけです。

5. **OK** をクリックします。
新しいポリシーが、ポリシーテーブルに表示されます。

 **メモ:** ポリシーは、1つ、または複数のサブスクリプションに含まれたら、すぐに「アクティブ」と見なされます。

ポリシーの編集

1. 左側のペインで インジケーション > ポリシー をクリックします。
2. 編集するポリシーを選択します。

 **メモ:** 非アクティブのポリシーだけを編集できます。

編集ボタンがアクティブになります。

3. **編集** ボタンをクリックします。
ポリシーの編集画面が開きます。
4. ポリシーに必要な変更を加えます。
 **メモ:** ポリシーを保存する前に、フィルタを少なくとも1つ選択する必要があります。

 **注意:** オプションフィルタは、ネットワークのパフォーマンスに影響を与える可能性があるために、十分に注意して使用してください。これらのフィルタの最適な使用方法として、単一のオプションフィルタを短期間、特定のクライアントに適用することで問題の診断を行う、などがあります。

5. **OK** をクリックします。
 **メモ:** サブスクリプションに含まれるまで、ポリシーはアクティブではありません。

ポリシーの削除

1. 左側のペインで、**インジケーション > ポリシー** をクリックします。
2. 削除するポリシーを選択します。
 **メモ:** 非アクティブのポリシーのみを削除することができます。

削除 ボタンがアクティブになります。

3. **削除** ボタンをクリックします。

サブスクリプションの設定

サブスクリプションは、ネットワーク上のクライアントから1つ、または複数のクライアントが選択された1つのポリシーのコレクションです。サブスクリプションの設定 画面から、以前に作成したサブスクリプションを表示したり、次の操作を実行したりすることができます。

- 新規サブスクリプションの作成
- サブスクリプションの編集
- サブスクリプションの削除
- サブスクリプションの実行 (選択したクライアントにサブスクリプションを適用)
- サブスクリプションの解除 (クライアントからサブスクリプションを削除)

各サブスクリプション行は以下のさまざまな状態のいずれかです。

- 保留中
- 実行中
- 停止中
- 完了
- エラーで終了
- 停止

昇順または降順で任意のフィールド別にサブスクリプションテーブルを並べ替えるには、関連する列タイトルをクリックします。サブスクリプションテーブルの列:

- サブスクリプション名
- 動作
- 修飾子 - 操作を変更します。Currently Stop は唯一の修飾子です。
- ステータス - サブスクリプションのステータスです。単一のクライアントが保留中 または 再試行 状態のままの場合、サブスクリプションのステータスは エラーで終了しました となります。
- ポリシー名
- ポリシーフィルタ
- クライアント - 1つのクライアントがサブスクリプションに含まれている場合は、その完全修飾ドメイン名 (FQDN) がテーブルにリストされます。サブスクリプションに含まれるクライアント FQDN が2つ以上あるときにリストを表示するには、列の **複数...** ハイパーリンクをクリックします。

サブスクリプションテーブルを更新するには、**更新** ボタンをクリックします。

サブスクリプションの作成

メモ: サブスクリプションを作成する前に、少なくとも1つのポリシーを作成し、クライアントを利用可能にする必要があります。

1. インジケーション > サブスクリプションの設定 をクリックしてから、**新規** ボタンをクリックします。
サブスクリプションの作成画面が表示されます。
2. サブスクリプションの名前を入力します。この名前は一意で、英数文字とスペースのみを含み、最大 64 文字とする必要があります。
3. サブスクリプションに含めるポリシーを選択します。
4. **次へ** をクリックします。
クライアントの選択画面が表示されます。
5. オプションで、**クライアントの検索** フィルタを使用して、使用可能なクライアントのリストを制限します。

メモ: このサブスクリプションのために選択したポリシーに推奨ポリシーだけが含まれる場合は、このサブスクリプションを適用する使用可能なクライアントのリストから複数のクライアントを選択できます。ただし、このサブスクリプションのために選択したポリシーにオプションフィルタの1つが含まれる場合、選択できるクライアントは1つだけです。

6. 左側のリストから1つ、または複数の適切なクライアントを選択してから、それらを右側に移動します。
7. **終了** をクリックします。

サブスクリプションの編集

1. インジケーション > サブスクリプションの設定 をクリックします。

メモ: アクティブなサブスクリプションを編集することはできません。

2. 編集するサブスクリプションを選択します。
3. **編集** ボタンをクリックします。
サブスクリプションの編集画面が表示されます。
4. サブスクリプションの編集画面で必要な変更を行い、**次へ** をクリックします。
5. 選択したクライアントの編集画面で必要な変更を行い、**終了** をクリックします。

サブスクリプションの削除

1. インジケーション > サブスクリプションの設定 をクリックします。

メモ: アクティブなサブスクリプションを削除することはできません。

2. 削除する設定を選択します。
3. **削除** ボタンをクリックします。

サブスクリプションの適用

メモ: リスナーの IP アドレス設定が設定されていない場合は、新しいサブスクリプションを適用することはできません。**設定** > インジケーション をクリックし、リスナーの IP アドレスを設定します。

メモ: 既存のアクティブなサブスクリプションと同じ1つ、または複数のフィルタまたは1つ、または複数のクライアントを含む新しいサブスクリプションを適用することはできません。

メモ: メッセージ多用向けフィルタのいずれかを含む別のサブスクリプションがアクティブな場合に、オプションフィルタのいずれかを含むサブスクリプションを適用することはできません。

メモ: すべてのタスクのサブスクリプションを解除 タスクが進行中の場合、サブスクリプションの実行、サブスクリプションの解除、またはサブスクリプションの停止を行うことはできません。

メモ: インジケーションサービス (DellAweSvc) が実行中でない場合、サブスクリプションの実行、サブスクリプションの解除、またはサブスクリプションの停止を行うことはできません。サービスコンソールでサービスのステータスを確認します。

1. インジケーション > サブスクリプションの設定 をクリックします。
2. 適用するサブスクリプションを選択します。
3. サブスクリプションの実行 をクリックします。

サブスクリプションの解除

メモ: すべてのタスクのサブスクリプションを解除 タスクが進行中の場合、サブスクリプションの実行、サブスクリプションの解除、またはサブスクリプションの停止を行うことはできません。

メモ: インジケーションサービス (DellAweSvc) が実行中でない場合、サブスクリプションの実行、サブスクリプションの解除、またはサブスクリプションの停止を行うことはできません。サービスコンソールでサービスのステータスを確認します。

1. インジケーション > サブスクリプションの設定 をクリックします。
2. 解除するサブスクリプションを選択します。
3. サブスクリプションの解除 をクリックします。

サブスクリプションのステータス

サブスクリプションのステータス画面で、サブスクリプションのステータスを表示できます。作成した各サブスクリプションについて、およびサブスクリプションのポリシーに含まれる各フィルタについて、サブスクリプションが適用される各クライアントは、個別の行に表示されます (フィルタの数 × クライアントの数 = サブスクリプションごとのテーブル項目数)。各サブスクリプション / クライアントの行の状態は、次のいずれかになります。

- 準備完了
- 再試行の保留中
- 処理中
- 成功
- エラー
- 停止

そのフィールドのいずれかによりサブスクリプションを昇順または降順にソートするには、適切な列タイトルをクリックします。テーブルのカラムは、次のいずれかです。

- サブスクリプション名
- 動作
- 修飾子
- ステータス
- クライアント
- ポリシーのフィルタ

サブスクリプションステータステーブルを更新するには、更新ボタンをクリックします。

サブスクリプションの停止

1つ以上のサブスクリプションの行が準備完了、処理中、または再試行保留中である場合は、サブスクリプションを停止することができます。サブスクリプションを停止しても、成功または失敗の状態であるサブスクリプションの行には影響しません。サブスクリプションを停止したら、サブスクリプションの設定画面に戻り、サブスクリプションを編集、削除、適用、または解除することができます。

メモ: 1つのクライアントでサブスクリプションを停止すると、その停止がそのサブスクリプションが適用されていたすべてのクライアントに適用されます。

1. インジケーション > サブスクリプションのステータス をクリックします。
2. 停止するサブスクリプションを選択します。
3. サブスクリプションの停止 をクリックします。

イベント

イベント画面には、サブスクリプションの適用後に返されるインジケーションのリストが表示されます。この画面からは、イベントのリストは表示のみが可能ですが、リストを*.csvファイルにエクスポートすることもできます。特定のタイプのイベントをもちや追跡する必要がなくなった場合は、イベントのメッセージIDをブラックリストに追加することができます。これにより、イベントが発生し続けても、ブラックリストからそれらを削除するまで、保存されなくなります。

イベントリストは、日付列でのみソート可能です。イベントリストで提供されるその他の情報は、以下のとおりです。

- クライアント - イベントを生成するクライアントシステム。
- メッセージID - イベントタイプです。多くのイベントが同じメッセージIDを共有することがあります。
- 説明 - イベントの簡単な説明です。
- 重要度 - 起こりうるイベントの重要度レベルには、未知、その他、情報、警告、軽微、重度、危機的、致命的があります。
- アラートのタイプ - 起こりうるアラートタイプには、その他、通信、サービス品質、処理エラー、デバイス、環境、モデル変更、セキュリティがあります。

イベントカウンタは、画面の右上部分に表示されます。更新ボタンをクリックすると、イベントカウントが更新され、イベントリストが更新されます。

① **メモ:** イベントカウンタは、イベントリストの中の表示されるイベントの数ではなく、保存されているすべてのイベントの数を示します。

イベントの表示

イベントリストを表示するには、以下の手順を実行します。

1. 左側のペインで **インジケーション > イベント** をクリックします。
2. オプションで、フィルタを使用してイベントリストに表示されるイベントを制限します。

① **メモ:** イベントカウンタは、イベントリストの中の表示されるイベントの数ではなく、保存されているすべてのイベントの数を示します。

- a. **フィルタ設定** をクリックします。
イベントフィルタの設定画面が表示されます。
- b. フィルタ方式を、なし、クライアント、メッセージID、クライアント、またはメッセージIDから選択します。
- c. **次へ** をクリックし、選択したフィルタオプションにより、**クライアント** および/または **メッセージID** を選択します。
- d. **終了** をクリックします。
イベントリストを更新します。

ブラックリストへのイベントの追加

イベントの特定のタイプ(メッセージID)をイベントリストから表示されないようにするには、これらのタイプを次のようにブラックリストに追加します。

1. 左側のペインで、**インジケーション > イベント** をクリックします。
2. メッセージIDを選択し、適切なボックスにチェックマークを付けて、ブラックリストに追加します。
3. **ブラックリストに追加** をクリックします。
選択したイベントのメッセージIDがブラックリストに追加されます。

① **メモ:** メッセージIDがブラックリストに追加されたら、同じメッセージIDを持つ以前のイベントはイベントリストに残ります。そのメッセージIDを持つ新しいイベントのみが破棄されます。

① **メモ:** すべてのイベントをブラックリストに追加すると、すべての、またはほぼすべての新しいイベントが破棄されます。

ブラックリストからのイベント削除

ブラックリストからメッセージIDを削除して、それらのタイプのイベントが破棄されないようにするには、次の作業を行います。

1. 左側のペインで **インジケーション > イベント** をクリックします。
2. **ブラックリストの管理** をクリックします。
イベントのブラックリスト画面が表示されます。ブラックリストに登録されたイベントは、メッセージIDまたは説明フィールドによりソートできます。
3. メッセージIDを選択して、適切なボックスにチェックマークを付けて、ブラックリストから削除します。

4. **ブラックリストから削除** をクリックしてから **閉じる** をクリックします。
削除されたメッセージ ID を含む新しいイベントが破棄されなくなり、イベントリストに表示されます

イベントのエクスポート

イベントのリストを *.csv ファイルにエクスポートするには

1. 左側のペインで **インジケーション > イベント** をクリックします。
2. 適切なボックスにチェックマークを付けて、エクスポートするイベントを選択します。
3. **エクスポート...** をクリックします。
4. イベントリストファイルを保存する場所に移動して、**保存** をクリックします。
選択したイベントが *.csv ファイルに保存されます。

クライアントの設定

ターゲットクライアントシステム上の電源プロファイル、起動順序、BIOS 設定、および BIOS パスワードを設定できます。

電源プロファイルの設定

Dell Command | Intel vPro Out of Band により管理されるクライアントシステム上の多様な電源プロファイルを定義します。お使いのクライアントシステムの多様な電源状態 (S0 ~ S5) で、電源消失後の Wake-up On Lan (WOL)、ON、OFF などの機能を制御できます。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band アプリケーションを起動します。
2. **クライアントの設定 > 電源プロファイル** をクリックします。
3. お使いのデスクトップおよび/またはモバイルコンピュータの電源ポリシーを選択します。**次へ** をクリックします。
クライアントの選択 タブが表示されます。
4. 電源パッケージを適用するクライアントシステムを検索します。
5. **利用可能なクライアント** リストから、管理するクライアントシステムを選択し、**>** ボタンをクリックして選択したシステムを移動するか、**>>** ボタンを押してすべての検出された Dell クライアントを **選択したクライアント** リストに移動します。
6. **次へ** をクリックします。
タスクのスケジュール タブが表示されます。
7. 変更を直ちに適用するか、後で実行するようにスケジュールするか、いずれかを選択できます。
スケジュールに応じて、次のいずれかのオプションを選択します。
 - **今すぐ実行** - 電力プロファイルへの変更はすぐに適用されます。
 - **実行待ち** - 電力プロファイルへの変更は、**タスクキュー** の中に入れられます。
 - ① **メモ:** **タスクキュー** を起動して、完了したタスクおよび保留中のタスクのリストを表示できます。
 - ① **メモ:** お使いのクライアントシステムがネットワークに接続されていない場合、クライアントシステムがオンラインに戻ったあとで、タスクを再度実行します。
8. 実行中のタスクに名前を付けて、**次へ** をクリックします。
サマリ タブが表示されます。
9. **終了** をクリックします。
タスクキューウィンドウが開き、タスクのスケジュール設定に応じて直ちに実行が開始されるか、待機状態になります。

起動順序の設定

対象のクライアントシステム上の起動順序を変更または設定します。レガシー起動デバイスが搭載されたクライアントシステムでは、起動順序機能により、永続的なまたは一回だけの起動順序の変更を行うことができます。

① **メモ:** この **起動順序** 機能は、**UEFI** 起動モードではサポートされていません。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band アプリケーションを起動します。
2. **クライアントの設定 > 起動順序** をクリックします。
3. テーブルに可能なすべての起動デバイスがリストされます。起動順序を以下により変更します。
 - テーブルの下部にある**上向き**または**下向き**の矢印をクリックして、起動デバイスの順序を上または下に移動します。

- 起動デバイスの横にあるチェックボックスを選択または選択解除することで起動デバイスを無効にします。
4. 次の設定オプションのいずれかを選択します。
 - **1回限りの起動設定** - 起動順序を1回限りの再起動サイクル用に変更する場合。
 - ① **メモ:** このオプションが選択されていない場合、起動順序が永久的に変更されます。
 - **エラー時に続行** - エラーが発生した際に、タスク実行を後続のクライアントシステムに引き継ぐ場合は、**エラー時に続行** オプションを選択します。それ以外の場合、エラーが発生した最初のクライアントシステムで、タスク実行は停止します。
 - **変更を適用後にクライアントを再起動する** - 変更の適用後、クライアントシステムを再起動する場合。
 5. **次へ** をクリックします。
クライアントの**選択** タブが表示されます。
 6. 起動順序の変更を適用するクライアントシステムを検索します。
 7. **利用可能なクライアント** リストから、**管理するクライアントシステム**を選択し、**▶** ボタンをクリックして選択したシステムを移動するか、**▶▶** ボタンを押してすべての検出された Dell クライアントを **選択したクライアント** リストに移動します。
 8. **次へ** をクリックします。
タスクの**スケジュール** タブが表示されます。
 9. 変更を直ちに適用するか、後で実行するようにスケジュールするか、いずれかを選択できます。
スケジュールに応じて、次のいずれかのオプションを選択します。
 - **今すぐ実行** - 起動順序の変更は直ちに適用され、**タスクキュー** に **実行中** ステータスが表示されます。
 - **実行待ち** - 起動順序への変更は、**タスクキュー** で待ち状態になります。
 - ① **メモ:** **タスクキュー** を起動して、完了したタスクおよび保留中のタスクのリストを表示できます。
 - ① **メモ:** お使いのクライアントシステムがネットワークに接続されていない場合、タスクを再度実行します。
 10. 実行するタスクに名前を指定して、**次へ** をクリックします。
サマリ タブが表示されます。
 11. **終了** をクリックします。
タスクキューウィンドウが開き、タスクのスケジュール設定に応じて直ちに実行が開始されるか、待機状態になります。

BIOS の設定

この機能では、1つまたは複数のクライアントシステム上に BIOS をリモートで設定、変更、およびリセットすることができます。

- ① **メモ:** サポートされている BIOS 設定オプションは、クライアントシステムごとに異なります。
1. Intel vPro OOB 管理拡張機能を起動します。
 2. **クライアントの設定 > BIOS 設定** をクリックします。
 3. お使いのクライアントシステムの BIOS 設定に希望する変更を行い、**適用** の下にあるチェックボックスを選択します。
 4. エラーが発生した際に、タスク実行を後続のクライアントシステムに引き継ぐ場合は、**エラー時に続行** オプションを選択します。それ以外の場合、エラーが発生した最初のクライアントシステムで、タスク実行は停止します。
 5. クライアントシステムで、特定の BIOS 機能が使用できない場合に BIOS の変更を続行する場合は、**使用できない BIOS 設定で続行する** オプションを選択します。
 6. 変更を適用後に再起動する場合は、**変更を適用後に再起動する** オプションを選択します。
 7. **次へ** をクリックします。
クライアントの**選択** タブが表示されます。
 8. 起動順序の変更を適用するクライアントシステムを検索します。
 9. **利用可能なクライアント** リストから、**管理するクライアントシステム**を選択し、**▶** ボタンをクリックして選択したシステムを移動するか、**▶▶** ボタンを押してすべての検出された Dell クライアントを **選択したクライアント** リストに移動します。
 10. **次へ** をクリックします。
タスクの**スケジュール** タブが表示されます。
 11. 変更を直ちに適用するか、後で実行するようにスケジュールするか、いずれかを選択できます。
スケジュールに応じて、次のいずれかのオプションを選択します。
 - **今すぐ実行** - BIOS 設定は直ちに適用され、**タスクキュー** に **実行中** ステータスが表示されます。
 - **実行待ち** - BIOS 設定は、**タスクキュー** で待ち状態になります。
 - ① **メモ:** **タスクキュー** を起動して、完了したタスクおよび保留中のタスクのリストを表示できます。
 - ① **メモ:** Dell クライアントシステムがネットワークに接続されていない場合、タスクを再度実行します。

12. タスクの名前を入力して **次へ** をクリックします。
サマリ タブが表示されます。
13. **終了** をクリックします。
タスクキューウィンドウが開き、タスクのスケジュール設定に応じて直ちに実行が開始されるか、待機状態になります。

BIOS パスワードの設定

この機能は、BIOS パスワードの管理、パスワードの設定、パスワードのクリア、またはパスワードの長さ要件の変更を実行できません。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band アプリケーションを起動します。
2. **クライアントの設定 > BIOS パスワード** をクリックします。
BIOS パスワード タブが表示されます。
3. 次のいずれかのオプションを選択します。
 - **クリア - 管理者** または **システム** のパスワードのいずれかをクリアします。
 **メモ: 管理者** パスワードをクリアする前に、**システム** パスワードをクリアします。
 - **設定 - 管理者** または **システム** のパスワードを入力し、確認します。
 **メモ: 管理者** または **システム** パスワードを設定した後で、クライアントシステムを再起動する必要があります。
 - **長さ - 管理者** および **システム** パスワードの最小長と最大長を指定できます。
4. エラーが発生した際に、タスク実行を後続のクライアントシステムに引き継ぐ場合は、**エラー時に続行** オプションを選択します。それ以外の場合、エラーが発生した最初のクライアントシステムで、タスク実行は停止します。
5. 変更を適用した後で再起動する場合は、**変更を適用後に再起動する** オプションを選択します。
6. **次へ** をクリックします。
クライアントの選択 タブが表示されます。
7. 起動順序の変更を適用するクライアントシステムを検索します。
8. **利用可能なクライアント** リストから、**管理するクライアントシステム** を選択し、**>** ボタンをクリックして選択したシステムを移動するか、**>>** ボタンを押してすべての検出された Dell クライアントを **選択したクライアント** リストに移動します。
9. **次へ** をクリックします。
タスクのスケジュール タブが表示されます。
10. パスワードの変更を直ちに適用するか、後で実行するようにスケジュールするかのいずれかを選択できます。
スケジュールに応じて、次のいずれかのオプションを選択します。
 - **今すぐ実行** - BIOS パスワード設定は直ちに適用され、**タスクキュー** に **実行中** ステータスが表示されます。
 **メモ:** Dell クライアントシステムがネットワークに接続されていない場合、タスクを再度実行します。
 - **実行待ち** - BIOS パスワード設定は、**タスクキュー** で待ち状態になります。
 **メモ:** **タスクキュー** を起動して、完了したタスクおよび保留中のタスクのリストを表示できます。
11. 適用する変更についての短い説明を入力して、**次へ** をクリックします。
サマリ タブが表示されます。
12. **終了** をクリックします。
タスクキューウィンドウが開き、タスクのスケジュール設定に応じて直ちに実行が開始されるか、待機状態になります。

操作

この機能により、KVM セッションの設定、電源のオフ/オフ、Dell クライアントシステムの再起動、および Dell クライアントシステムのハードドライブのリモートワイプができます。

KVM セッションの確立

この機能により、Intel グラフィックスカードが搭載されたクライアントシステムのプライマリまたはセカンダリ (ある場合) のモニターをリモートで表示できます。詳細に関しては、[dell.com/support/manuals](https://www.dell.com/support/manuals) にあるクライアントシステムのマニュアルを参照してください。

-  **メモ:** リモート KVM セッションを確立する前に、Intel Management Engine BIOS Extension (MEBx) インタフェースを介して KVM を有効にします。

メモ: KVM セッションがタイムアウトする場合は、非アクティブの期間のあとで、KVM セッションを再確立します。タイムアウト期間を指定するには、「**KVM**」を参照してください。

Intel グラフィックスカードが搭載されたリモートクライアントシステムとの KVM セッションを確立するには、次の手順を実行します。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band アプリケーションを起動します。
2. **操作 > KVM 接続** をクリックします。
KVM 接続 タブが表示されます。
3. KVM セッションを確立するクライアントシステムのリストを検索します。
4. KVM セッションを開始するクライアントシステムを選択し、**接続** をクリックします。

電力管理の実行

この機能を使用すると、AMT 操作によって有効な Windows オペレーティングシステムから、クライアントシステムを正常にシャットダウンまたは再起動することができます。

メモ: Windows ファイアウォールは、Dell Command | Integration Suite for System Center によって要求される正常な電力をブロックできます。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band アプリケーションを起動します。
2. **操作 > 電源管理** をクリックします。
電源管理 タブが表示されます。
3. ドロップダウンリストからクライアントシステム上で実行する電源制御オプションを選択します。
4. **次へ** をクリックします。
クライアントの選択 タブが表示されます。
5. 電源管理の変更を適用するクライアントシステムを検索します。
6. **利用可能なクライアント** リストから、**管理するクライアントシステム**を選択し、**>** ボタンをクリックして選択したシステムを移動するか、**>>** ボタンを押してすべての検出された Dell クライアントを **選択したクライアント** リストに移動します。
7. **次へ** をクリックします。
タスクのスケジュール タブが表示されます。
8. タスクを直ちに適用するか、後で実行するようにスケジュールするか、いずれかを選択できます。
スケジュールに応じて、次のいずれかのオプションを選択します。
 - **今すぐ実行** - 電源管理の変更は直ちに適用され、**タスクキュー** に **実行中** ステータスが表示されます。
メモ: Dell クライアントシステムがネットワークに接続されていない場合、タスクを再度実行します。
 - **実行待ち** - 電源管理の変更は、**タスクキュー** で待ち状態になります。
メモ: **タスクキュー** を起動して、完了したタスクおよび保留中のタスクのリストを表示できます。
9. 適用する変更についての短い説明を入力して、**次へ** をクリックします。
サマリ タブが表示されます。
10. **終了** をクリックします。

クライアントデータの消去

注意: この操作は、クライアントシステム上のすべてのデータを削除します。

メモ: クライアントのハードドライブのリモート消去では、完了するまでにしばらく時間がかかる場合があります。

クライアントディスクの消去機能は、サポートされているクライアントシステムのハードドライブ上のデータをリモートで消去します。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band アプリケーションを起動します。
2. **操作 > クライアントデータの消去** をクリックします。
3. **クライアントデータの消去** を選択した後で、次のアクションのいずれか実行できます。
 - **スケジュール** - クライアントシステムのハードディスクを消去する時間をスケジュールします。詳細については、「**クライアントデータ消去のスケジュール設定**」を参照してください。
メモ: クライアントデータのリモート消去操作をスケジュールするには、クライアントにネットワークからアクセスする必要があります。

- **取得** - クライアントシステムのハードディスクの消去のステータスを取得します。詳細については、「[クライアントデータ消去ステータスの取得](#)」を参照してください。

クライアントデータ消去のスケジュール設定

クライアントデータ消去機能を使用すると、サポート対象のクライアントシステムのハードドライブ上のデータをリモートで削除できます。クライアントデータ消去のスケジュールを設定するには、以下の作業を行います。

1. **スケジュール** を選択して **次へ** をクリックします。
クライアントの**選択** タブが表示されます。
2. リモートデータ消去をスケジュールするクライアントシステムを検索します。
3. **使用可能なクライアント** リストから、**管理するクライアントシステム**を選択し、**▶** ボタンをクリックして、**選択したシステム**を移動します。または **▶▶** ボタンを押して、**発見されたすべての Dell クライアント**を **選択済みクライアント** リストに移動します。
4. **次へ** をクリックします。
5. **タスクのスケジュール** タブが表示されます。
6. タスクを直ちに適用するか、後で実行するようにスケジュールするか、いずれかを選択できます。スケジュールに応じて、次のいずれかのオプションを選択します。
 - **今すぐ実行** - クライアントデータ消去操作がすぐに適用され、タスクキュー内の実行ステータスが表示されます。
 - ① **メモ:** お使いのクライアントシステムがネットワークに接続されていない場合、タスクを再度実行します。
 - **実行待ち** - クライアントディスク消去操作をタスクキューに入れます。
 - ① **メモ:** タスクキュー を起動して、完了したタスクおよび保留中のタスクのリストを表示できます。
7. 適用しているタスクの短い説明を入力して、**次へ** をクリックします。
 - ① **メモ:** **消去後のクライアントデータの取得** タスクを実行して、クライアントシステムのハードドライブが正常にフォーマットされたことを確認することをお勧めします。詳細については、[消去後のクライアントデータの取得](#) を参照してください。
8. **終了** をクリックします。

クライアントデータ消去ステータスの取得

- ① **メモ:** **取得** を使用すると、クライアントデータ消去操作のステータスを要求します。
- ① **メモ:** リモートハードドライブ消去コマンドをサーバからクライアントシステムに発行したあと、タスクのステータスは **完了** に変化します。クライアントシステムのフォーマット処理は、このステータスが **完了** に変化したあとでのみ開始します。

ステータスを取得するには、次の作業を行います。

1. **取得** を選択し、**次へ** をクリックします。
クライアントの**選択** タブが表示されます。
2. クライアントデータ消去のステータスを取得するクライアントシステムを選択します。
3. **使用可能なクライアント** リストから、**管理するクライアントシステム**を選択し、**▶** ボタンをクリックして、**選択したシステム**を移動します。または **▶▶** ボタンを押して、**発見されたすべての Dell クライアント**を **選択済みクライアント** リストに移動します。
4. **次へ** をクリックします。
5. **タスクのスケジュール** タブが表示されます。
6. タスクを直ちに適用するか、後で実行するようにスケジュールするか、いずれかを選択できます。スケジュールに応じて、次のいずれかのオプションを選択します。
 - **今すぐ実行** - クライアントデータ消去操作のステータスがすぐに取得され、タスクキューに実行中ステータスが表示されます。
 - ① **メモ:** お使いのクライアントシステムがネットワークに接続されていない場合、タスクを再度実行します。
 - **実行待ち** - ステータスは、タスクキューの中で待機中です。
 - ① **メモ:** タスクキュー を起動して、完了したタスクおよび保留中のタスクのリストを表示できます。
7. 適用する変更についての短い説明を入力して、**次へ** をクリックします。
サマリ タブが表示されます。
8. **終了** をクリックします。

レポートの生成

この機能により、Out-Of-Band 管理機能、プロビジョニング、ラップトップクライアントシステムのバッテリーの正常性、および単一または複数クライアントシステムのハードウェアインベントリレポートに関する詳細レポートを生成および表示できます。これらのレポートはスプレッドシートとしてエクスポートできます。

1. Dell Command | Intel vPro Out of Band アプリケーションを起動します。
2. ホーム画面で **レポート** をクリックします。
3. ようこそ画面では、次のレポートを生成できます。
 - **Out Of Band 管理機能** - クライアントシステム用の AMT 管理エンジン設定を表示できます。
 - **プロビジョニング** - ネットワーク内のすべてのクライアントシステムのプロビジョニングステータスを表示します。
 - **バッテリーの正常性** - ネットワーク上のすべての AMT 対応クライアントシステムのバッテリーの正常性を表示します。
 - **ハードウェアインベントリ** - ネットワーク上のすべてのクライアントシステムのインベントリ情報を収集します。
4. 必要なレポートの種類を選択したあとで、以下のアクションのいずれかを実行できます。
 - **スケジュール** - 詳細については、「[レポートのスケジュール](#)」を参照してください。
 - **取得** - 詳細については、「[レポートの取得](#)」を参照してください。

レポートのスケジュール

ネットワーク上で選択されたクライアントシステムのレポートを生成します。レポートをスケジュールするには、次の手順を実行します。

1. **スケジュール** をクリックします。
クライアントの**選択** タブが表示されます。
2. レポートを表示したいクライアントシステムのリストを検索します。
3. **利用可能なクライアント** リストから、**管理するクライアントシステム**を選択し、**▶** ボタンをクリックして選択したシステムを移動するか、**▶▶** ボタンを押してすべての検出された Dell クライアントを **選択したクライアント** リストに移動します。
4. **次へ** をクリックします。
タスクのスケジュール タブが表示されます。
5. タスクを直ちに適用するか、後で実行するようにスケジュールするか、いずれかを選択できます。スケジュールに応じて、次のいずれかのオプションを選択します。
 - **今すぐ実行** - レポートのスケジュールタスクは直ちに適用され、タスクキューに **実行中** ステータスが表示されます。
i **メモ:** お使いのクライアントシステムがネットワークに接続されていない場合、タスクを再度実行します。
 - **実行待ち** - レポートのスケジュールタスクがタスクキューで待ち状態になります。
i **メモ:** タスクキューを起動して、完了したタスクおよび保留中のタスクのリストを表示できます。
6. タスクの名前を入力して **次へ** をクリックします。
サマリ タブが表示されます。
7. **終了** をクリックします。
タスクキューウィンドウが開き、タスクのスケジュール設定に応じて直ちに実行が開始されるか、待機状態になります。

レポートの取得

i **メモ:** レポートの取得では、**スケジュールされたレポート** を介して収集されたデータのレポートを要求します。

既存のレポートを表示します。レポートを取得するには、次の手順を実行します。

1. **取得** をクリックします。
クライアントの**選択** タブが表示されます。
2. レポートを表示したいクライアントシステムのリストを検索します。
3. **利用可能なクライアント** リストから、**管理するクライアントシステム**を選択し、**▶** ボタンをクリックして選択したシステムを移動するか、**▶▶** ボタンを押してすべての検出された Dell クライアントを **選択したクライアント** リストに移動します。
4. **次へ** をクリックします。
5. タスクを直ちに適用するか、後で実行するようにスケジュールするか、いずれかを選択できます。
スケジュールに応じて、次のいずれかのオプションを選択します。

- 今すぐ実行 - レポートの取得タスクは直ちに適用され、タスクキューに **実行中** ステータスが表示されます。
 **メモ:** お使いのクライアントシステムがネットワークに接続されていない場合、タスクを再度実行します。
- 実行待ち - レポートの取得タスクがタスクキューで待ち状態になります。
 **メモ:** タスクキューを起動して、完了したタスクおよび保留中のタスクのリストを表示できます。

6. タスクの名前を入力して **次へ** をクリックします。

サマリ タブが表示されます。

7. **終了** をクリックします。

タスクキューウィンドウが開き、タスクのスケジュール設定に応じて直ちに実行が開始されるか、待機状態になります。

タスクキュー

タスクキューウィンドウでは、スケジュール済みのタスクと完了したタスクを確認することができます。以下をクリックすることもできます。

- **更新** - タスクキューを更新します。
- **表示** - タスクキュー内ある個々のタスクに関する詳細情報を表示します。 **エクスポート - 情報** を Excel ファイルにエクスポートします。
- **再実行** - タスクが正常に実行されたクライアントシステムはスキップして、クライアントシステムで失敗した既存のタスクを再実行します。タスクがエラーなしに完了した場合に、**再実行** をクリックすると、タスク内のすべてのクライアントシステムを再起動します。
- **取得** - レポートのパスの取得 (スケジュールではない) タスクを実行します。
- **編集** - 保留中 (実行を待機中) のタスクを編集します。編集が進行中の際、タスクは **保留状態** に置かれます。
- **複製** - 保留中のタスク、完了したタスク、およびキャンセルされたタスクを複製します。
- **キャンセル** - まだ **完了** していないタスクをキャンセルします。

トラブルシューティング

本項には、Dell Command | Integration Suite for System Center のトラブルシューティング情報が含まれています。

トピック：

- [Authenticode 署名](#)
- [ワイヤレス KVM](#)
- [ハードウェアインベントリレポートのメモリ速度がゼロとして報告される](#)
- [最大パスワード長さの変更](#)
- [S3 での OS 起動のための KVM 電源制御](#)
- [オペレーティングシステムの適用 タスクシーケンス操作に赤色の感嘆符が表示される](#)

Authenticode 署名

.Net で署名を検索しているため、authenticode 署名の起動に通常より長く時間がかかる場合は、[Support.microsoft.com/kb/936707/](https://support.microsoft.com/kb/936707/) で説明される手順に従います。

ワイヤレス KVM

ツール リンク設定 > OS がワイヤレスを所有 を選択するといつでも、ワイヤレスリンクの制御が Intel Management Engine からオペレーティングシステムに転送されます。(ツール 電源制御 シャットダウンまたは再起動コマンドを選択するといつでも、ME がワイヤレスリンクの制御を獲得します。)

ME にワイヤレスリンクの制御 (リンク設定) が付与されるといつでも、タイムアウト値が提供され、ME がワイヤレスリンクの制御を維持する時間が示されます。その時間が経過した後は制御が OS に戻されます。たとえば、ユーザーは Reboot To OS を選択して、クライアントのオペレーティングシステムを再起動します。

KVM リンクを維持するために、ME にまずワイヤレスリンクの制御が付与されます。システムが再起動プロセスを完了するための十分な時間があるよう、タイムアウトはデフォルトで 10 分に設定されています。再起動が 10 分以内で完了した場合は、ME は OS が再起動されたあとも制御を維持します。すぐに OS に制御を戻す場合は、ツール > リンク設定 > OS がワイヤレスを所有 を選択する必要があります。その場合は、転送プロセス中に KVM 接続が消失します。接続を再確立するには、接続 > 開始 を選択する必要があります。また、リンク設定タイムアウトが満了する結果として、ワイヤレスリンクの制御が自動的に戻る際、接続消失は起こりません。次のように、シャットダウン / 再起動操作のそれぞれに個別のタイムアウト値が存在し、外部から設定できます。

- LPTimeoutRebootToOS
- LPTimeoutRebootToBIOS
- LPTimeoutRebootToDiagnostics
- LPTimeoutRebootWithIDER
- LPTimeoutShutdown

詳細については、http://software.intel.com/sites/manageability/AMT_Implementation_and_Reference_Guide/DOCS/Implementation%20and%20Reference%20Guide/default.htm を参照してください。

ハードウェアインベントリレポートのメモリ速度がゼロとして報告される

これは、メモリ速度が秒単位で定義されている場合の DMTF の問題です。Configuration Manager のリソースエクスプローラにより、現在これは 0 として報告されています。

最大パスワード長さの変更

一部のシステム BIOS では、最大パスワード長さを 32 文字から削減することはサポートしていません。

S3 での OS 起動のための KVM 電源制御

KVM 接続が確立された後で、AMT クライアントの電源状態が S3 または S4 になった場合、スリープ状態になる 30 秒以内に KVM 接続が失われます。(この問題は、有線および無線環境の両方で発生します)。このような場合、管理者は、再起動コマンド (OS、BIOS、Diagnostics、IDE-R) を発行する前に、接続を再開する必要があります ([接続 > スタート](#))。

オペレーティングシステムの適用 タスクシーケンス操作に赤色の感嘆符が表示される

ベアメタルクライアント展開テンプレートを使用して新しいタスクシーケンスを作成する際には、オペレーティングシステムの適用 タスクシーケンス操作に赤色の感嘆符が表示されます。この問題を解決するには、次の手順を行います。

1. タスクシーケンスエディタで、**オペレーティングシステムイメージの適用** をクリックします。
2. オペレーティングシステムイメージを以下から選択します。
 - **取り込んだイメージからオペレーティングシステムを適用する** オプションを選択。
 - **元のインストールソースからオペレーティングシステムを適用する** オプションを選択。
3. **参照** をクリックします。
4. オペレーティングシステムイメージを参照して選択し、**OK** をクリックします。
5. **カスタムインストールに無人または Sysprep 応答ファイルを使用する** オプションを選択解除します。
6. **オプション** タブをクリックします。
7. **この手順を無効にする** オプションを選択します。
8. **適用** をクリックします。
9. **オプション** タブをクリックします。
10. **この手順を無効にする** オプションを選択解除します。
11. **適用** をクリックします。

関連リファレンス

この説明書のほかにも、参考になる製品ガイドが用意されています。これらは、Dell サポートウェブサイト support.dell.com/manuals にあります。

- 『*Dell Command | Configure ユーザーズガイド*』では、Dell ビジネスクライアントプラットフォーム用にさまざまな BIOS 機能を設定するため、**Dell Command | Configure** をインストールして使用方法を説明しています。
- 『*Dell Command | Monitor ユーザーガイド*』では、**Dell Command | Monitor** ソフトウェアをインストールして使用方法を説明しています。
- 『*ハードウェアサービスマニュアル*』では、システム、システムコンポーネントのインストール、システムのトラブルシューティングに関する情報を提供します。

Microsoft System Center Configuration Manager (以下「Configuration Manager」)、そのインストール方法、または機能の詳細については、Configuration Manager の詳細を説明した Microsoft TechNet サイト (technet.microsoft.com) を参照してください。

トピック：

- [テクニカルサポートの利用法](#)
- [デルへのお問い合わせ](#)

テクニカルサポートの利用法

このガイドの手順が理解できない場合、または製品が期待通りに機能しない場合はいつでも、多様なタイプのヘルプを利用できます。詳細については、お使いのシステムの『*ハードウェアオーナーズマニュアル*』の「**困ったときは**」を参照してください。

デルへのお問い合わせ

メモ: お使いのコンピュータがインターネットに接続されていない場合は、購入時の納品書、出荷伝票、請求書、またはデルの製品カタログで連絡先をご確認ください。

デルでは、オンラインまたは電話によるサポートとサービスのオプションを複数提供しています。サポートやサービスの提供状況は国や製品ごとに異なり、国/地域によってはご利用いただけないサービスもございます。デルのセールス、テクニカルサポート、またはカスタマーサービスへは、次の手順でお問い合わせいただけます。

- Dell.com/support** にアクセスします。
- サポートカテゴリを選択します。
- ページの下部にある **国/地域の選択** ドロップダウンリストで、お住まいの国または地域を確認します。
- 必要なサービスまたはサポートのリンクを選択します。